

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 15 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720313

研究課題名(和文)日本近世近代における観光地形成過程の歴史学的研究

研究課題名(英文) Historical research on the process by which a tourist resort formed in early modern and modern Japan

研究代表者

高橋 陽一 (TAKAHASHI, Yoichi)

東北大学・東北アジア研究センター・助教

研究者番号：40568466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまで分析が不十分であった史跡や温泉をめぐる旅を題材に、近世・近代における観光地の形成過程を解明することを目的とした。研究方法は旅行者が記した記録(紀行文・道中日記)、及び温泉史料の収集と分析である。

旅行者の記録分析では、紀行文執筆者の学者と道中日記執筆者の庶民の間で旅に対する認識に相違がみられることが判明した。庶民の方が観光的な意識をより強く抱いていたのである。また、温泉に関しては、観光地化が進む以前の周辺状況を把握しようと試み、温泉の所属する村の近世における社会経済状況を分析した。こうした一連の作業により、観光地の形成過程を通時的に描き出す糸口を発見することができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the process by which a tourist resort formed in early modern and modern Japan, by focusing on the topic of the travel involving historic sites or hot springs whose analysis was insufficient until now. The methods were to collect and analyse the ancient documents(travelogues and travel diaries) in which the traveler wrote and about the hot springs.

In the traveler's documents analysis, it became clear that there was a difference in the recognition about a journey between the scholars that wrote travelogues and the common people that wrote travel diaries. The common people had a stronger sense of purpose for sightseeing. Moreover, regarding hot springs, I tried to grasp the conditions of the area before the tourist resort-ification began, and analyzed the socioeconomic situation of the village to which the hot springs belonged. By such analysis, I was able to find the lead to describe the process by which a tourist resort formed over time.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世 日本 旅 名所 観光 温泉 紀行文 道中日記

1. 研究開始当初の背景

日本の前近代の旅に関する研究は、新城常三の『新稿社寺参詣の社会経済史的研究』(塙書房、1982年)を実質的な嚆矢とする。新城は、中世の信仰に対し、旅自体を楽しむ遊山(観光)の旅が生まれたことを近世期の旅の特色として指摘している。多少の異論はあるものの、この「近世の旅=物見遊山」という見解は、当時の旅を研究する上で揺るがすことのできない学説となっている。

ただ、以降の近世旅行史の体系的成果が原淳一郎著『近世寺社参詣の研究』(思文閣出版、2007年)であることから明らかなように、従来の研究は総じて寺社参詣の分析に偏重していた。旅の全体像を把握した上で、その特質を議論することが求められる状況であった。

また、歴史学以外の分野で旅行史と接点を持ちうるのは、観光地理学や観光人類学といった観光諸学であるが、これらの分野では、前近代の旅が研究対象とされることは少なく、もっぱら近代交通発達以降の旅と観光地の形成過程が論じられていた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の視点

近世には名所旧跡や自然景観、温泉などを巡る旅も広範に行われており、その内実は極めて多彩である。上記の研究背景に鑑みれば、近世的な旅の特質、とりわけ旅行者の観光的な意識の萌芽と拡大、また地域側の観光地化の過程は、寺社参詣以外の旅の分析をも踏まえ、総合的に議論する必要がある。そして、その成果と観光諸学の成果との架橋を図ることで、近世から近代にかけての観光地の形成過程を通時的に理解することが可能になる。

(2) 本研究の目的

以上のことから、本研究では、近世・近代における民衆動向と地域社会の展開を観光の視点から捉えて描出し、観光地の形成過程を歴史的に解明することを目的とした。具体的には、名所旧跡や温泉を巡る旅を対象とし、旅行者の行動と旅先となる地域の動きとの両側面を分析することとし、この結果を、他分野で積み上げられてきた観光地形成についての議論を取り込みながら考察することも課題とした。

3. 研究の方法

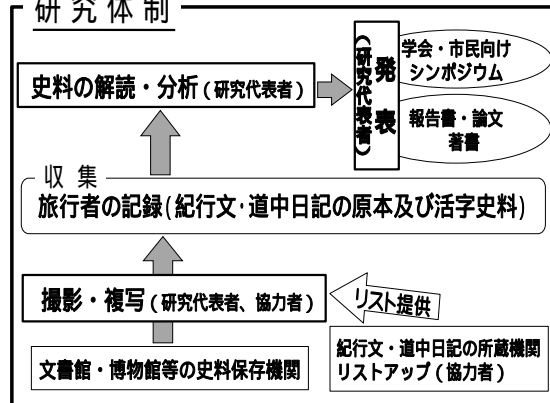
(1) 史料の収集

歴史研究を遂行する上で重要かつ不可欠な作業は史料調査であり、特に近世・近代史をテーマとする場合は、未見の新史料の発掘が研究の価値を飛躍的に高める。本研究においては、新たな分析対象と研究視角の導入を検討していることもあり、新史料の発掘とその地道な収集活動・分析に当面重点を置くことにした。

まず、優先的に行ったのは旅行者が書き残

した記録(紀行文・道中日記)、及び地域史料をなるべく網羅的に集めることである。拠点とする研究機関周辺の東北地方を研究対象地域に定め、研究協力者に大学院生1名を得て、歴史系学術機関の目録等の刊行物をもとに、当該史料がどこにどの程度所蔵されているか、所在状況を調査し、それをリストアップする作業を進めた。その上で、主に研究代表者が関東・東北・北海道の学術機関において、史料調査(写真撮影、複写による史料収集)を実施した(下記「研究体制」の図参照)。温泉関係史料については、一関市博物館所蔵の須川温泉関係文書(温泉開発者槻山家の史料)の収集作業を年に数回、協力者の補助を得て実施した。史料の所在状況リストアップと収集作業は研究期間の3年間を通して実施した。

研究体制



(2) 史料の分析

収集した史料のうち、紀行文や道中日記については、まず大まかな旅の行程を追い、それを年代も含めて比較しやすいよう表にまとめる基礎的作業を行い、その後精読を進めた。また、研究史については、近世史を中心とした歴史学は勿論のこと、観光諸学にも目配りをして整理することとした。

4. 研究成果

(1) 旅行者の記録分析と成果

「研究の目的」で述べた通り、本研究においては、旅行者側の史料と共に旅先地域側の史料収集を行うことも必須であった。だが、研究計画申請後に発生した東日本大震災により、当初予定していた近世の名所として著名な松島・塩釜(共に宮城県)の実地調査を断念することとし、代わって「研究の方法」にあるように、旅行者側の記録と地域側の温泉関係史料の収集・分析を重点的に実施した。

協力者によってリストアップされた、近世東北旅行者の紀行文・道中日記の数は3年間で約1500点に上る。これらうち、研究代表者が歴史系学術機関での撮影・複写や刊行物の購入等によって収集し得たのは約500点である。本研究ではこの中から近世の代表的名所である松島を訪れた旅行者の記録にまずは対象を限定し、大まかな行程の基礎的分析作業を行った。その点数は約200点である。

この数字は全体からみると一部に過ぎないようにみえるが、本サンプルからは松島旅行者の行程の大きな特徴が導き出せる。即ちそれは、出立地と松島を往復する（松島でUターンする）松島往復型、出羽三山や平泉といった他の名所も合わせて来訪する東北周回型、関東方面から蝦夷地への旅（公務が多い）の途上で松島に立ち寄る北海道往復型、東北各地から伊勢参宮への旅の途上で松島に立ち寄る伊勢参宮型、の4パターンにほぼ明確に分類できるのである。ここからは、「江戸時代の東北旅行は松尾芭蕉『おくのほそ道』を追跡する旅である」という従来の指摘に対し、実際には『おくのほそ道』と全く同じ行程を辿った旅の例が一件も検出できないという新事実を明らかにすることができた。この点については、2014年2月に研究者・市民を交えた報告会にて、「江戸時代の東北旅行 紀行文・道中日記にみえる松島」と題して発表している。

また、旅行者の記録の精読をさらに進め、松島の中でも歌枕・霊場として中世から衆目を集めてきた雄島での旅行者の行動に焦点を絞り分析を進めた。とりわけ注目したのは雄島の史蹟（石碑）に対して旅行者が抱く印象である。分析の結果、紀行文執筆者の知識人（学者）層は、中世の石碑に関心を寄せる一方で、同時代（近世）に建立された石碑には忌避感を示しており、道中日記執筆者の庶民層は雄島に対する関心そのものが低調であることが判明した。学者層は旧来の雄島の歌枕・霊場の風景を求めて旅をしているのに対し、庶民層は雄島の風景に関心を寄せず、近世に壮麗な装いで再建された瑞巖寺や松島全体の自然景観に魅了されているのである。このことから、近世においては、まず庶民層が観光的な意識を次第に強めるようになっていったと考えられるのであり、近世に入り一気に物見遊山（観光）が展開したのではなく、信仰的な旅から観光的な旅への移行に階層差があったと理解することができる。

以上の検証結果について、前者の学者層の旅の特徴は、2014年2月に「石碑のある風景 近世の旅行者と松島」と題して、研究者向けの共同研究報告会で発表し、同題で既に論文にもまとめ、投稿中である。今後は庶民層の旅の特徴をまとめることにより、旅行者の意識の変容動態を糸口に、松島が観光地化していく過程を描出することが可能になるのではないかと考えている。

（2）温泉関係史料の収集と分析

温泉関係史料に関しては、一関市博物館所蔵の槻山家文書の調査を実施した。槻山家は、近世には陸奥国西磐井郡猪岡村の肝入（村長）を務めるなど地域行政の中樞を担い、近代（明治時代）には須川温泉の本格的な開発に乗り出し、地域振興に尽力した旧家である。3年間、10回以上にわたる調査により撮影した史料は約700点に上る。

須川温泉が本格的に開発されるのは明治

時代以降であるが、地域の観光地化の過程を辿るに当たっては、まず観光地化以前の地域の状況を詳細に把握し、なぜその時期に観光地化の動きがみられなかったのか、そして何をきっかけにその動きがスタートするのかを見極める必要がある。

以上のような観点から、まず着手したのは近世における須川温泉周辺の地域状況の把握である。槻山家文書から温泉が属する村（猪岡村）全体の経済状況が読み取れる史料の分析を進め、論文「天保飢饉における村の負担 仙台藩領村落を事例に」としてまとめた。19世紀前半の飢饉時における村の税負担を検証し、村内の生産物や貨幣の蓄積状況を明らかにしたものである。近代の温泉の発展と直接的にリンクする論稿ではないが、村の貨幣蓄積の背景に他地域との経済交流が想定できることが明らかであり、今後この交流の具体相をさらに綿密に紐解いていき、観光諸学における近代以降の温泉社会の発展に関する議論をも盛り込むことで、近代において須川温泉の開発を可能にした人的・物的背景が見通せるのではないかと考えている。

（3）総括

以上（1）（2）の成果により、名所や温泉が観光地化を遂げていく過程を近世から近代にかけて通時的に描出し、旅行史研究における新たな論点を提起できるだけの有効な素材と知見を獲得できたと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

高橋陽一「天保飢饉における村の負担 仙台藩領村落を事例に」、『平川塾論集2 近世の地域社会と文化』、査読有、2014年度刊行決定、掲載決定済、頁未定

〔学会発表〕（計5件）

高橋陽一「石碑のある風景 近世の旅行者と松島」、東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門歴史資料学の調査と研究プロジェクト【共同研究】第3班報告会、2014年2月23日、東北大学東京分室

高橋陽一「江戸時代の東北旅行 紀行文・道中日記にみえる松島」、上廣歴史文化フォーラム、2014年2月9日、仙台市博物館

高橋陽一「近世の定宿講と旅行者」、郵政歴史文化研究会、2013年9月22日、逓信総合博物館

高橋陽一「天保飢饉時（1830年代）における村の社会経済状況 仙台藩領村落の年貢負担分析をもとに」、東北文化研究会、2012年8月2日、東北大学

高橋陽一「天保～嘉永期の村の性格について 仙台藩領村落の年貢負担分析をもとに」、仙台近世史フォーラム、2012年7月6日、東北学院大学

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 陽一 (TAKAHASHI, Yoichi)
東北大学・東北アジア研究センター・助教
研究者番号：40568466

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：